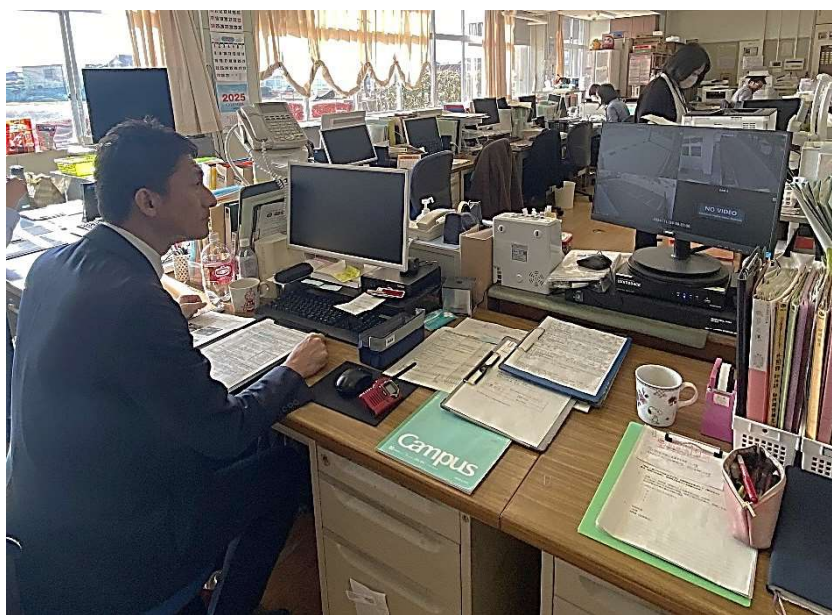


Ⅳ 「生活安全（防犯を含む）の充実」 に向けた取組 実践協力校：石巻市立鹿又小学校



「生活安全（防犯を含む）の充実」に向けた取組

石巻市立鹿又小学校

- 1 ねらい
 - ① 不審者が出た際の身体の安全を確保する方法を身に付け、安全かつ敏速に避難できる能力や態度を養う。
 - ② 教職員が防犯カメラで不審者を確認した際、児童が敏速に避難できる能力や態度を養う。
- 2 テーマ
 - ・防犯カメラとトランシーバーを活用し、不審者が侵入する前に校舎内の施錠が間に合うかを検証する避難訓練
- 3 指導時数
 - ・授業時間：1 時間、業前：1 コマ（バリケードの設置訓練）
- 4 指導の流れ

※不審者が侵入しないパターン

予定時刻	活動の流れ	内 容	☆備考 ◆準備物
		職員室の動き	
9 : 3 8	1 不審者出没 2 不審者発見	○ 職員室内の防犯カメラを見て、【不審者（石巻警察署の方）】が保護者用の駐車場に侵入したことを確認する。	☆不審者役をにおいて実施。
9 : 4 0	3 施錠の確認 不審者対応	○ 【教頭】が不審者に気付き、【校長】に報告すると同時に【教務】に放送の指示を出す。 ○ 【教頭】は、昇降口に行き施錠と不審者への対応をする。 ○ 【職員室にいる職員】職員室内の防犯カメラで校舎外の様子を伺い、状況を把握。1 階の施錠を始める。 ○ 【校長】は児童に危害が及ぶと判断し、以下の1～3の指示を出す。	☆ほうき等を持ち、現場の応援に駆け付ける。【男性の職員を中心に】 ◆ほうき、はしご・さすまた、椅子等
9 : 4 1	4 避難指示放送	1 【職員室の職員】1 階の全ての窓やドアの施錠を確認するとともに、1 階昇降口で不審者対応。 2 【教務】が校内放送で全校に避難指示を出す。「連絡をします。校地内に不審な人物が侵入したため、学年主任の先生は、トランシーバーの電源を入れてください。2 階、3 階の担任の先生は窓やドア、非常階段の施錠を行い、カーテンを閉めてください。児童と一緒に避難行動をとってください。」 2 回繰り返す。 3 【事務職員】は警察へ通報。「石巻市立鹿又小学校です。校舎前に不審者が現れました。至急、警察官の派遣を要請します。不審者は男性1名、凶器を所持しているようです。」 市教委に連絡。	【トランシーバーでの報告の仕方】 (例) 教務 「職員室の〇〇です。児童を1組に移動させ、バリケードを作ることとは完了しましたか。1年生から順番に報告してください。どうぞ。」 1年生 「1年生の〇〇です。避難行動完了しました。どうぞ。」 教務 「次、2年生どうぞ。」 1年生 「2年生の〇〇です。…」 ※以下繰り返し
9 : 4 1	5 避難 不審者対応	○ 【事務職員】は防犯カメラを確認し、トランシーバーで状況を伝える。 ○ 【事務職員】は職員室で警察官の到着を待つ。 ○ 警察官が到着し不審者の身柄を確保。異常事態解除。	
9 : 4 8	6 不審者確保 放送	○ 校長の指示を受け、校内放送で全校に異常事態解除を知らせる。【教頭】「不審者が確保されました。担任の先生の指示に従って、体育館に移動しましょう。」 ○ 校長の指示を受け警察、市教委に連絡。【教頭】	

		教室での動き	
9 : 4 1	1 避難行動開始	○ 放送を聞き、2階の【各担任】は児童を1組教室に移動させ教室のドアを施錠し、バリケードを作り、児童を不審者から見えないような場所に整列、座らせ、静かに待機させる。男性職員を中心に棒、さすまた等を持ち、現場に応援に駆け付ける。	※訓練後の児童の様子を観察し、不安な様子はないか確認する。不安を抱く児童がいれば対応する。
9 : 4 6	2 避難行動完了 報告をする	○ 放送を聞き、1階の【各担任】は教室のドアを施錠し、児童を不審者から見えないような場所に整列、座らせ、静かに待機させる。棒、さすまた等を持ち、警戒する。	☆1階教室の担任は、廊下の様子を伺う。 ☆児童を1組教室に移動させた後、教室に残る担任が教室付近の窓やドアの施錠を行う。
9 : 4 8	3 教室内で避難行動継続	○ 【教室に残る担任】がトランシーバーを使って避難行動（児童の移動、施錠、バリケード）が完了したことを、職員室まで報告する。（報告の順番：1年→2年→3年→4年→5年→6年）※職員室から、報告をするよう指示があつてから報告をする。	応援に向かう担任は、廊下や非常階段等のドアの施錠も行いながら応援に向かう。【事前に各階で役割を確認しておく】
	4 不審者確保の放送	○ 教室では、トランシーバーの電源を入れたままにし、常に不審者の動きが分かるようにしておく。	☆各学年担任のうち1名はほうき等を持ち、現場の応援に駆け付ける。【男性の職員を中心に】
		○ 【教頭】「不審者が確保されました。担任の先生の指示に従って、体育館に移動しましょう。」	【職員室の職員、各教室担任】
		○ 避難訓練後の講話のため、児童を落ち着いて体育館に移動させる。	

※不審者が侵入するパターン

不審者が侵入しないパターンを基本とするが、当日の不審者役の警察の方の動きによっては侵入することもある。そのため、侵入した場合は以下のことを基本として対応する。

- ・ 不審者が侵入した際には教頭が、又は職員室にいる職員が放送で全校に周知する。その後、不審者の位置はトランシーバーで伝える。
- ・ 1組教室に児童を集める。各学年担任の内、男性職員を基本として不審者対応に向かう。
- ・ 不審者対応に向かう際には、ほうき、はしご、さすまた、椅子等、不審者に対応する際に役立ちそうなものを持っていく。
- ・ 不審者とは2m程度の距離を保ちながら対応する。
- ・ 不審者を取り押さえることを目的とせず、警察が到着するまでの時間稼ぎを行う。

5 成果

- 警察と連携しながら不審者の侵入する場所を事前に決めずに訓練を行ったことで、緊張感を持ちながら実践的な訓練を行うことができた。
- 校地内に不審者が侵入したことを、明確かつ端的に放送することができた。
- トランシーバーを使って情報伝達したことで、有用性に気が付いた。
- 不審者と対峙した際に距離を取ったり、脚立やほうきなどで対応したり、指示役の教職員がいたことで、不審者と対峙（たいじ）できた。
- 不審者と対峙（たいじ）した職員が「刃物に気をつけて」「右手を押さえます」「落ち着きましょうね」など、声を掛けていた。
- バリケード設置訓練を児童と一緒に行うことで、児童と教職員の防犯意識を高めることができた。
- 職員室のホワイトボードに、誰が来校するのか書いてあったのが防犯面でよかった。

6 課題

- 110番をする際は、不審者の状況をリアルタイムで報告できるためスマホで通報する。
- トランシーバーを全職員がいつでも使えるように、定期的に訓練したり日常的に使ったりする必要がある。
- 不審者に簡単に侵入されないように、1階の窓にストッパーを付け、一定以上開かないようにする必要がある。
- 教室の窓に目張りを付け、心理的に児童が教室にいないと思わせる必要がある。
- 不審者がいるところをすぐに周知できるように、ホイッスル等を身に付けておく必要がある。
- 1階各出入口の施錠を、日常的に行うように見直す必要がある。



効果的なバリケード



1組教室へ移動



職員での対応